



瀬田南幼稚園だより

令和5年6月27日
大津市立瀬田南幼稚園
園長 平木 秀樹

例年よりも随分と早い梅雨入りとなり、激しく雨が降る日もありますが、天候に応じて室内でも、戸外でも子ども達は元気いっぱいです！

プール遊びも始まり、水や泥、砂などに存分に触れながら開放的に遊んでいます。これから夏休みまでの1か月間、まだまだ雨の日も多いと思いますが、お日さまの光を浴びながら、全身の感覚をいっぱい使って遊ぶ経験を重ねてほしいと思っています。

心揺さぶられる体験の共有を

3歳児さくら組では、ツマグロヒョウモンという蝶々の幼虫を大切に飼っています。幼虫は毛虫のようにトゲトゲがあって、いかにも刺しそうな姿なのですが、実は毛虫に擬態して身を守っているだけで安全です。子ども達はそのことも担任から教えてもらって、興味津々で幼虫の様子を見ていました。

6月後半になると幼虫はサナギへ、そして蝶々へと成長し、さくら組の子ども達は、蝶々を広いお空に逃がしてあげることにしました。テラスにみんなで集まり、担任が飼育ケースのふたを開けると蝶々は、ひらひらと大空へ舞い上がっていきました。子ども達は、「わ〜！」と歓声を上げ、「はいほ〜い！！！」と声をそろえ嬉しそうに蝶々を見送ったのでした。さくら組の子どもたちにとっては生き物の成長を間近に見て、その成長を友達と共に喜びとても貴重な機会になりました。

このように心揺さぶられる体験を友達や先生と共有することは、友達や先生との共感性を高め、「つながっている」という実感をもつことにつながります。その経験は、子ども達の中に「自尊感情」を培うとともに、身近な人を「思いやる気持ち」にもつながっていきます。



「よかった！先生が来てくれたよ。」

同日、園庭を走っていたさくら組の子どもがジャングルジムの前で転んでしまいました。その子は座り込んで泣いているようでした。すると、ブランコやジャングルジムで遊んでいたさくら組の子ども達がみんな心配そうにその子の周りに集まってきました。しばらくその子を取り囲んでいた子どもたちは「先生〜！」と保育室の前にいる担任を呼びました。担任の方へと走って呼びに行く子もいました。

このような姿を見て、きっとクラスとしての様々な共有体験が、子ども同士の温かいつながりを育ててくれているのだろうと感じました。

「一緒」の楽しさと喜びを存分に味わって！

天候不良でプールに入れなかったある日、4歳児ぱんだ組では、子ども達が空き箱制作や小麦粉粘土、お家ごっこ、お店屋さんごっこなど思い思いの遊びに取り組んでいました。

空き箱でワニを作ったAくんは、ワニを手にBくんとCちゃんがお家ごっこをしているところに行きました。お家ごっこのテーブルでは、Bくんが色画用紙をハサミで切ってお鍋に入れています。ごちそうを作っているつもりのようです。

Aくん:「入れて」

Bくん:「いいよ、ほく ルイージやし、Aくん、マリオな」

Aくん:「うん、いいで」

一応、Bくんは、スーパーマリオのイメージをもちながらごちそう作りをしているようでした。Aくんもそのイメージをすんなり受け入れてお家の中に入りました。



Aくん: 空き箱のワニをテーブルの上に置いて「優しくしたげへんと(ワニが)怒るしな」

丁度そこへDちゃんとEちゃんがお家に帰ってきました。

Aくん: DちゃんとEちゃんにも「なぜなぜして優しくしいひんと怒るで」

Dちゃん・Eちゃん: それぞれワニを手でなぜ、それを見たAくんは満足そう。

しばらくすると、Aくんは、材料棚のところへ行って、黒い画用紙をもってきました。

Aくん: 「お肉もってきたで」

Bくん: 「お肉、お肉」 2人で黒い画用紙を切ってお鍋に入れていきます。

Cちゃんは、やかんからお茶をコップに入れる真似をしています。家の中には5人いるのに、コップが4つしか出ていないことに気がきます。

Cちゃん: 「コップが足らへん・・・」

Aくん: それを聞いて「ぼくはなくてもいいで～」

けれども、Cちゃんは棚にあと一つコップがあるのに気づき、それにお茶を汲む真似をしてテーブルへ。

Cちゃん: お茶を飲む真似をして、「う～」とおなかを突き出す。(後で聞くとおなかがいっぱいになったしぐさだったそうです。)

Dちゃん・Eちゃん: Cちゃんを見て笑い、2人でお茶を飲んで「う～」とおなかを突き出すしぐさ。

この後も段ボールで作ったお風呂で順番にシャワーを浴びたり、友達と同じことをして遊ぶのを互いに楽しんでいる様子でした。

今の4歳児は、「友達と同じ目的やイメージをもって」というような遊び方ではなくて、



「う～。お茶でお腹がふくれちゃった！」

「一緒に遊んでいる」という思いをもちながらも、それぞれが面白いと思うことに取り組んでいます。友達に自分の思いを伝えようという気持ちはあるようですが、突然自分の思いついたことを話し出したり、言葉足らずなところがあったりして十分友達に伝わっていないことも多くあります。それが友達とのトラブルになることもあるのですが、この場面のようにお互いが友達の思いをなんとなく感じ取りながら遊び、友達との「一緒」を楽しむ姿も多く見られます。

このような関わりを重ねていくことを通して、少しずつ友達の思いと自分の思いをつないで遊ぶ楽しさにも気づけるようになっていくのだろうと思います。

ぼくたち、スーパーマリオだぞ！

5歳児そら組では、スーパーマリオになって遊んでいる子ども達があります。巧技台やゲームボックスを組み合わせて、一本橋や飛び石、トンネルなどいろいろな動きを楽しめるコースを作るのが楽しいようです。コースづくりでは、重い一本橋などを友達と一緒に運んだり、組み合わせたりしていかないといけないので、「ここに(一本橋を)付けるんやな」「ちょっと(一本橋が)短い(届かない)で～」と自然と力を合わせたり、声を掛け合ったりする姿が見られるようになっていきます。また、繰り返し取り組んでく中で、「○○くん、ここがちゃんとハマってないで～」 「もうちょっと右、右～」と危険な組み合わせ方に気付いて知らせ合う姿もあります。



「重いからみんなで運ぼう」

先ほどの4歳児に比べると5歳児は、「ぼくたちはスーパーマリオ」「マリオのコースを作ろう！」などの思いを共有しながら遊びを進めてく姿が見られます。遊んでいるうちに思いが離れてしまって遊びがバラバラになってしまったり、互いに思いが伝えきれずに困ってしまったりすることもあり、まだまだ教師が子ども達の気持ちをつなぐ手助けをしていくことが必要ですが、こうした経験を重ねながら、友達と力を合わせて遊ぶ楽しさを実感したり、仲間意識を深めたりしていくのだと考えています。

最近では、段ボールでマリオの『秘密基地』を作ることを楽しんでいるようですよ！

最近のお子さんの様子や「みなみかぜ」へのご感想をお聞かせください。お待ちしております！

みなみかぜ アンケート

お子さんのクラス _____ 組

お名前 _____